

地方公共団体における 地域幸福度（Well-Being）指標 の活用推進に向けて

2022年（令和4年）12月19日

第1回デジタル田園都市国家構想実現に向けた地域幸福度
（Well-Being）指標の活用促進に関する検討会

デジタル庁

デジタル田園都市国家構想と 地域幸福度（Well-Being）指標

人口減少に伴い、供給が需要に合わせる経済へ

- 人口増加局面では、バス停に来るバスを待つなど、**需要が供給に合わせる**。
しかし、**人口減少局面では**、バスが顧客の都合に合わせて動くなど、**供給が需要に合わせる**ことになる。
- **その実現には**、需給をリアルタイムで把握し、供給側の意思の確認を待たずに先にものやサービスを動かす、**デジタル基盤が必ず必要**となる。

人口増加局面 (国内消費拡大局面)

需要が供給に合わせる経済

交通	乗客がバス停で時刻表のバスを待つ
労働	雇用先の就業ルールに従業員が合わせる
買い物	消費者が売っている店まで買いに行く
教育	特定の学校・カリキュラムに生徒が集まる
医療	特定の医療機関とかかりつけ医に通う
物流	供給者側の指示で物流が動く
行政サービス	市役所に行って、手続きを申請する

- 人口も市場も増えるなら、供給からバリエーションを増やして、積極的に需給を調整できる。
=> **バスの本数が増える局面だから、調整できた。**

人口減少局面 (国内消費縮小局面)

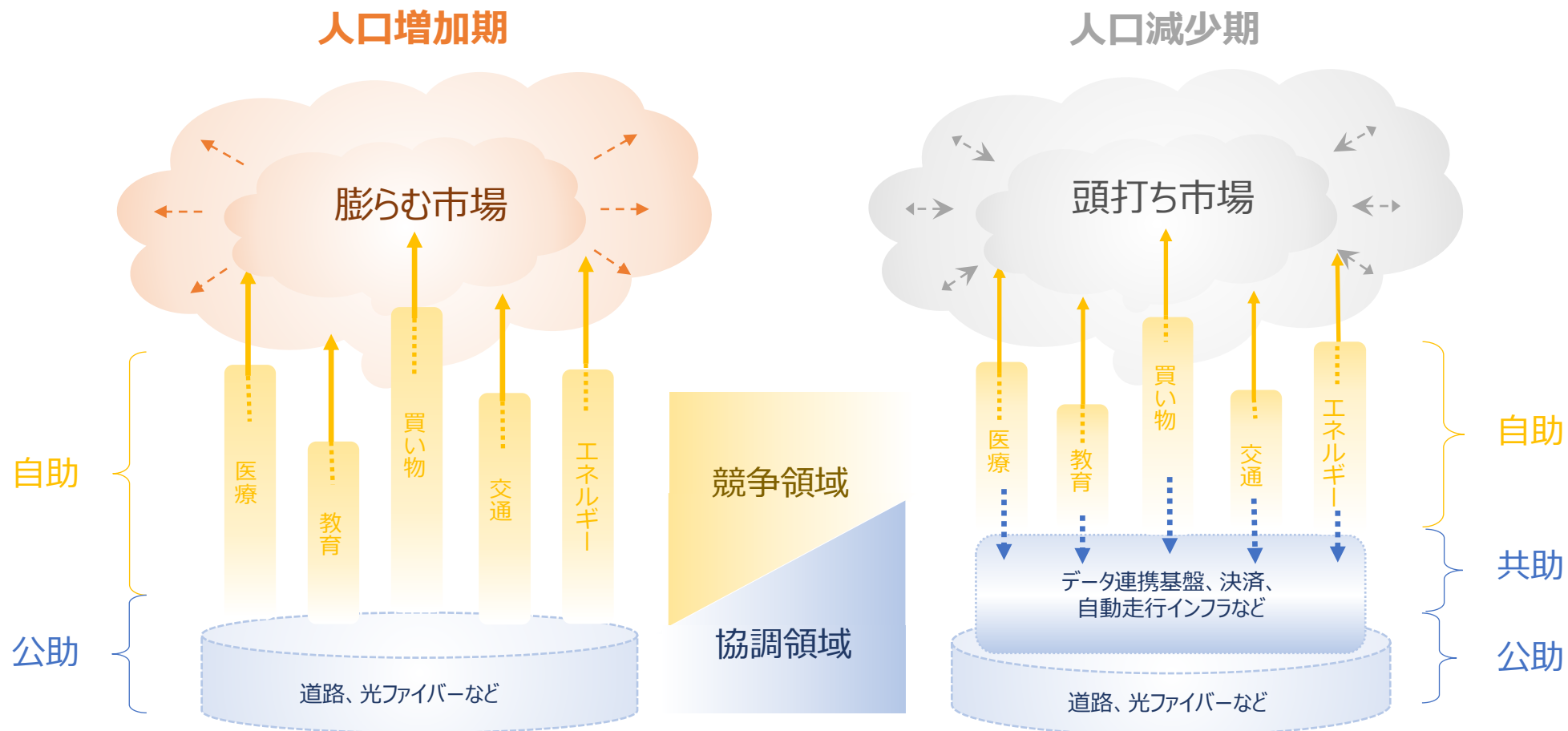
供給が需要に合わせる経済

交通	迎いの車が乗客の都合に合わせて
労働	従業員の暮らしに就業ルールが合わせる
買い物	商品が消費者の家に届けられる
教育	生徒の側が学校・カリキュラムを選ぶ
医療	患者が医療機関と医師を選ぶ
物流	需要動向に合わせて自動的に物が動く
行政サービス	通知を受け取り、手続きが自動的に行われる

- 人口も市場も減る局面では、供給は削るしかなく、供給が需要に効率的にあわせるしかない。
=> **リアルタイムの需要データが必要に。**

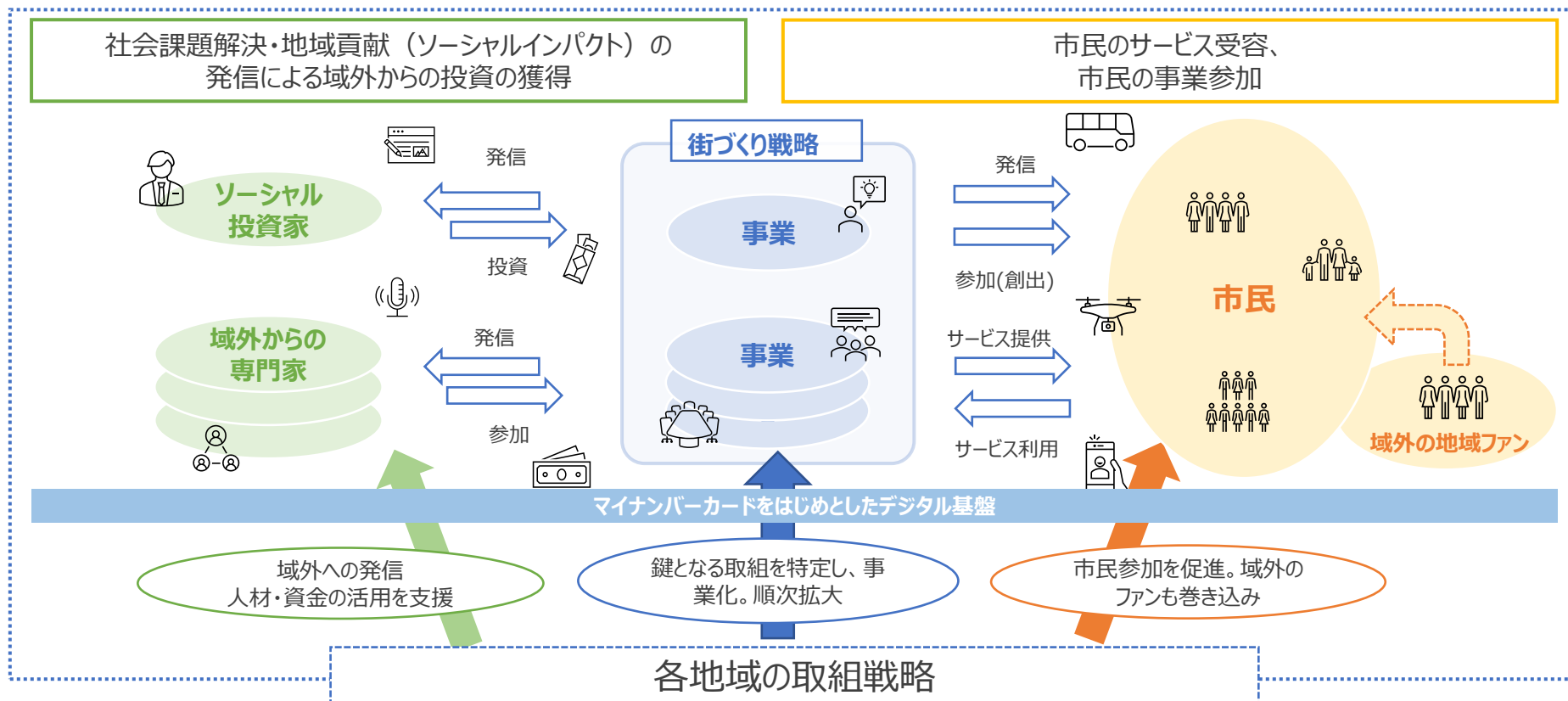
地域力を生かしたデジタル基盤の必要性

- 市場の拡大期（人口増加期）には、各事業者が個別にデジタル基盤へ投資を積極的に実施。
- 市場の縮小期では、個別では回収できないおそれがあるため投資が停滞。
しかし、複数とはいえ特定の事業者が使うデジタル基盤には公的部門も支援を入れにくく、**基盤への投資が停滞。**
結果、デジタル投資全体が膠着。



市民参加を得つつ、域内外の人材・資金を積極的に取り込み

- 地域でのデジタル実装が進み、デジタル技術・基盤を活用した生活サービスの充実を図る段階では、**解決する社会的課題や貢献を示すことで域外からの投資やデジタル人材も積極的に活用**。
また、域外の地域ファンも含め**市民参加を積極的に得る**ことで、力強い生活サービスの成長を実現。
- **個々の事業と、街づくり全体の戦略の間の好循環**が生まれるよう、**地域幸福度（Well-Being）指標などを活用**しつつ、市民、事業家、域内外の投資家・デジタル人材、全員を街づくり戦略の策定作業に取り込み、PDCAサイクルを実現。



地域幸福度（Well-Being）指標を活用した地域住民等の巻き込み

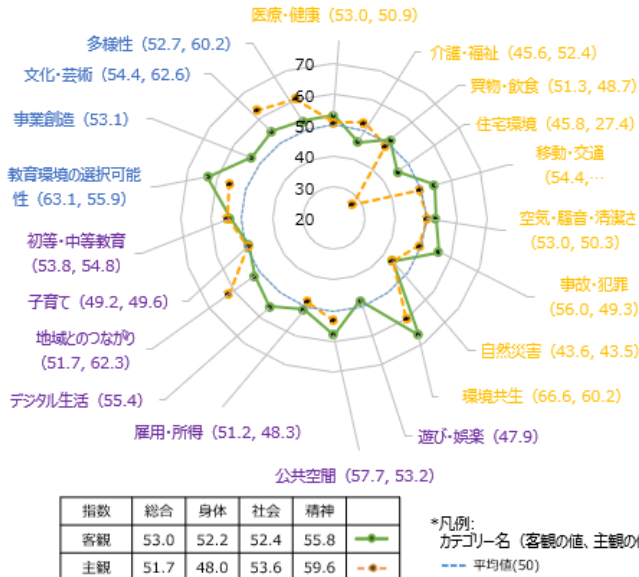
- 地域幸福度（Well-Being）指標の活用は、エリア内の地域住民等の巻き込みに重要な役割を果たす。

【活用事例：浜松市におけるワークショップ】

本年10月に市民ワークショップを開催し、その様子をアーカイブとして市民に公開し市民理解促進に活用。

ワークショップの主な内容：

- ①自分が日常で感じる幸せな瞬間やエピソードを互いに紹介。
各エピソードを性質ごとに分類・整理しながら、自分のWell-beingとまちづくりについて議論。
- ②特定の人物像を設定し、未来の浜松に向け、主人公の市民がより幸せを感じられる暮らしを創るため、まちに何が必要なのか考える。



主観データの出典：日経BP 総合研究所「シティブランド・ランキング2021」

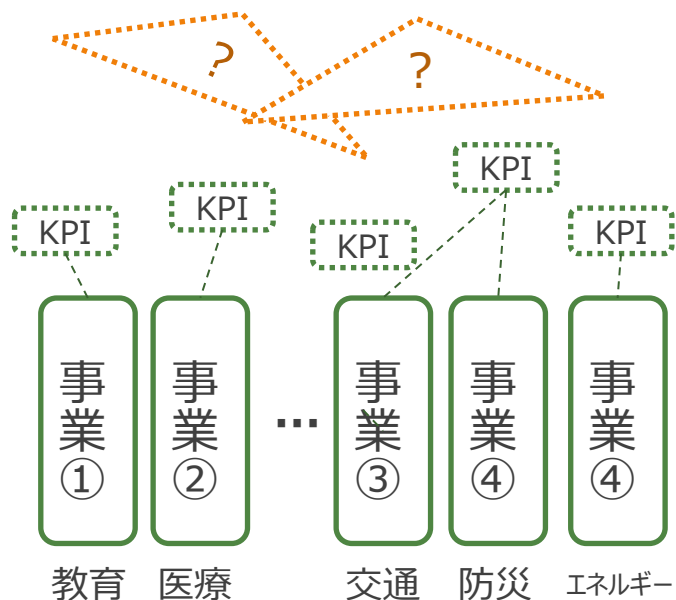


地域幸福度（Well-Being）指標の活用

- 地域幸福度（Well-Being）指標を活用することで、**地域全体で目指したい姿の検討がより具体的になり、産官学、市民含め、地域の様々なプレイヤーの協力を引き出すことが可能**。また、地域幸福度（Well-Being）指標をKPIとして持つことで、**地域の様々なプレイヤーが自分たちの活動を評価しやすくなる**。
- 各エリアでの取組間の好循環とPDCAサイクルの実現が目的であり、地域間比較等を行わない。
なお、活用された指標や測定結果は極力オープン化。

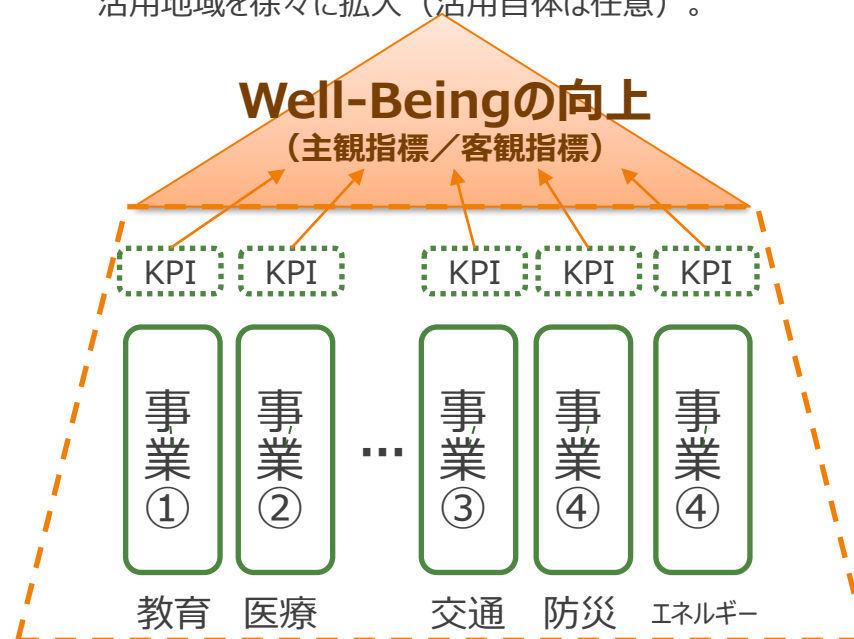
現状

- 複数事業を包括する街全体の目指す価値観の明示が不十分。それぞれの事業が目指すまちづくりの目的や取組もバラバラ。
- KPIの設定も事業毎に独自に設定されており、相互の連関性は低い。



今後

- Well-Being指標測定のための客観指標に必要なデータ及び主観指標に必要なアンケート調査などはデジタル庁で準備（独自の手法によるも対応可）。
- デジ田交付金Type2/3採択自治体を中心に活用を開始。活用地域を徐々に拡大（活用自体は任意）。



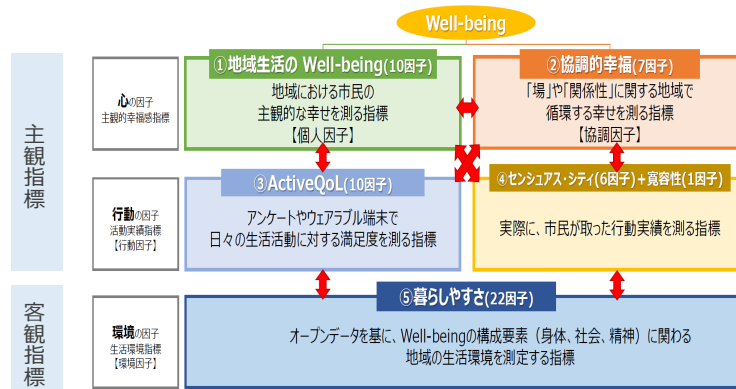
地域幸福度（Well-Being）指標の構成

- 各種統計データを指標化し、分野間などの比較に用いる**客観指標**と、市民等へのアンケート調査結果を指標化し、時系列での比較に強い**主観指標**から構成。
- 基本的なデータや、指標の分析ツールはデジタル庁から提供。
<https://www.digital.go.jp/news/26c0d00b-6625-4e77-8b53-cebcb76a268/>



○地域幸福度（Well-Being）指標の構成要素

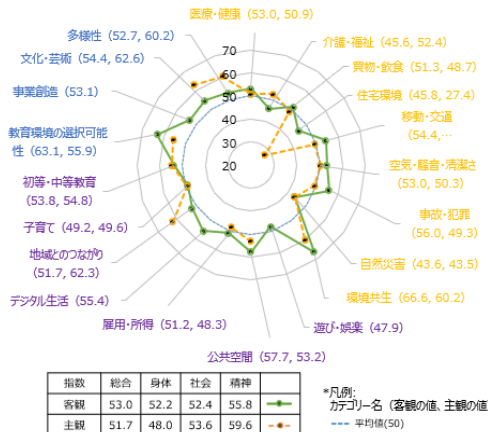
生活指標に関する客観指標のほか、日々の行動や幸福感に関する主観指標を用意。



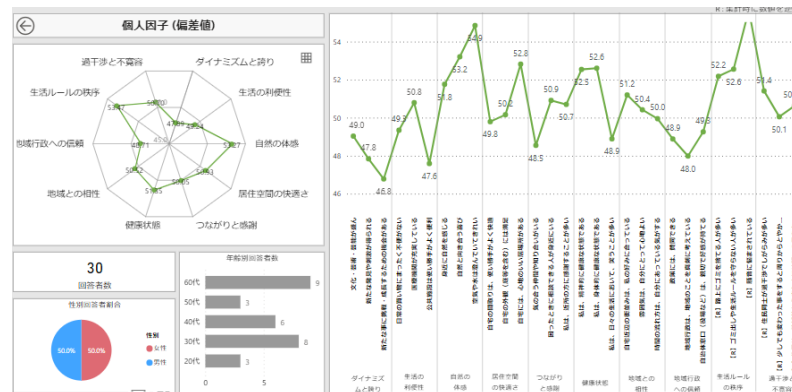
出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

○指標の活用イメージ：指標はレーダーチャートで可視化。地域間比較することができる。

〈客観指標〉



〈主観指標〉



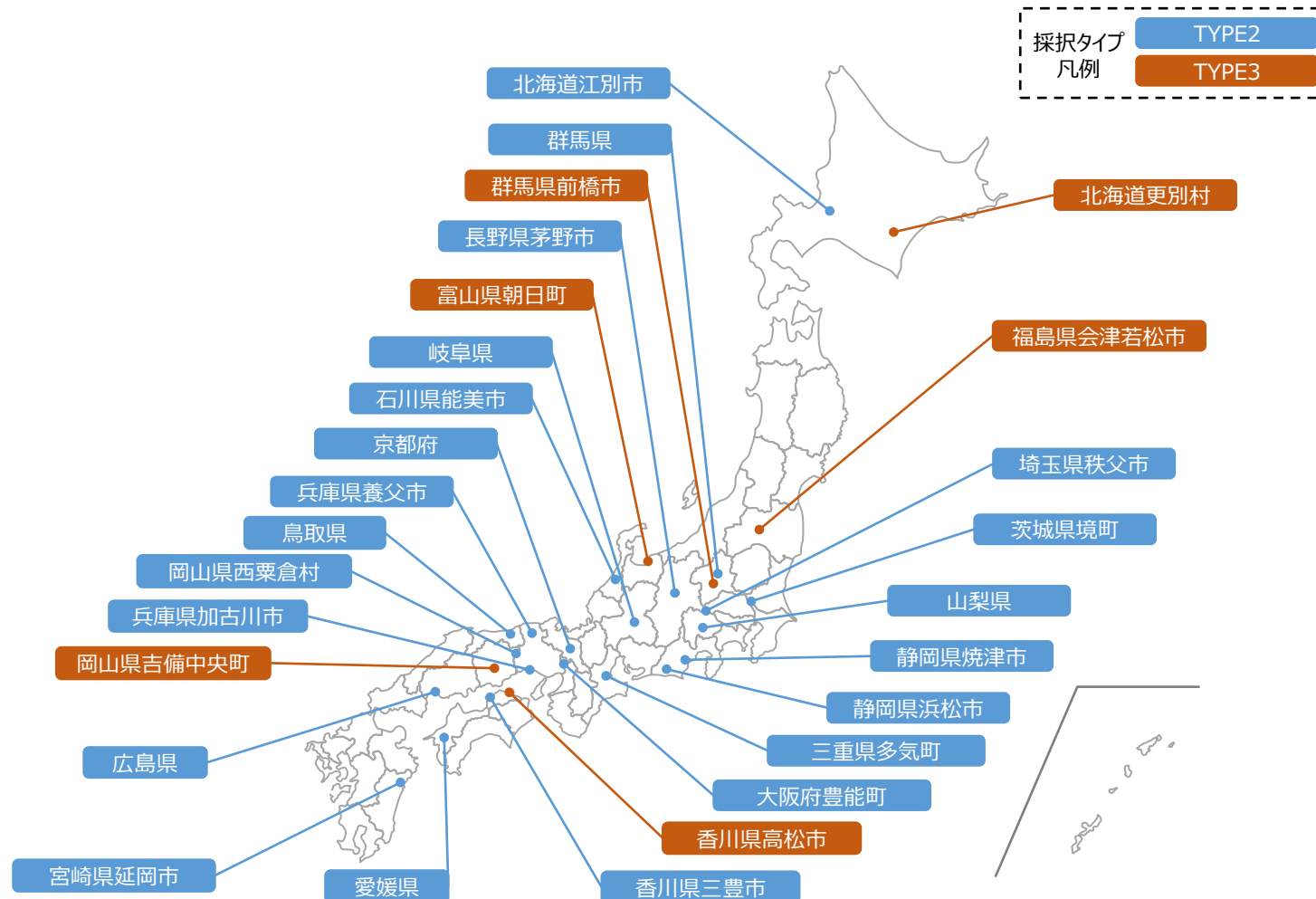
出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュートHP

各地域における地域幸福度（Well-Being） 指標の活用に関する現状と課題

デジ田推進交付金（R3補正）TYPE2/3採択自治体での活用

- 令和3年度補正予算により措置したデジタル田園都市国家構想推進交付金では、オープンなデータ連携基盤を活用し、複数のサービス実装により地域住民等のWell-Beingの向上を図る、モデルケースとなり得る取組であるTYPE2/3については、地域幸福度（Well-Being）指標の測定を要件としている。

【デジ田推進交付金（R3補正）TYPE2/3に採択された27自治体】



自治体における指標導入に当たっての現状と課題

- 指標の活用についてハードルの高さを感じる自治体も少なからず存在。
- 自治体における導入支援の進め方について御議論いただきたい。

【R3補正デジタル交付金TYPE2/3採択団体（27団体）における活用状況】

- ・ 既に施策活用を検討している自治体から、これから着手する自治体まで、活用状況には濃淡が見受けられる。
 - ・ これから着手する自治体に対してヒアリング等を行ったところ、指標活用への理解が難しいといった声が一定数存在。
- こうした声も踏まえ、まずは客観指標について手順書を提供するといった対応を実施（参考資料参照）



【本日御議論いただきたい事項】

1 自治体に対する情報提供・導入支援の進め方について

2 分析の段階的な精緻化について

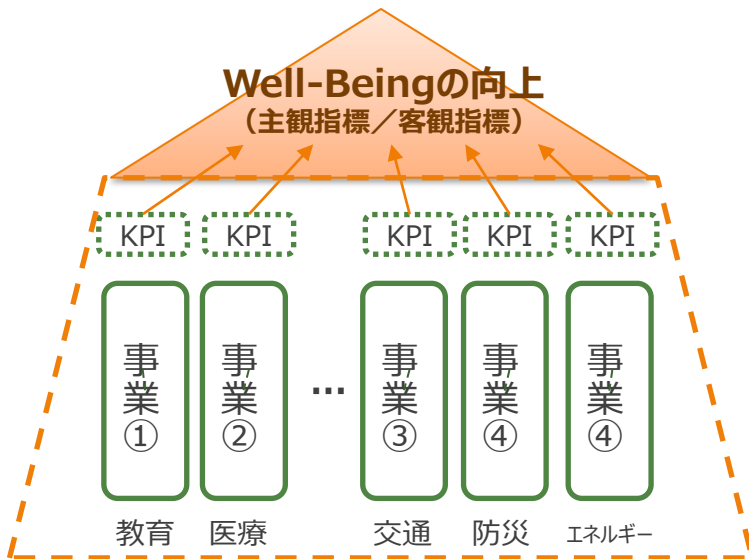
- ・ いきなりフルボリュームの精緻なデータ収集・分析を行うことはハードルが高いのではないか。
- ・ たとえば、指標の導入初期段階においては、主観指標のアンケートのサンプル数・質問事項を限定するなど、簡易的に分析を実施し、徐々にデータの充実や分析の精緻化を進めていくといったことも考えられるのではないか。

— その他の論点

関連する他の指標等との関係について

- Well-Being指標は、住民の幸福度を測る包括的な指標であるが、地域において行われる各種事業において、様々な関連する指標も用いられており、自治体において混乱が生じないように、こうした関連する他の指標との関係性の整理が必要。
- 例えば、スマートシティ施策のKPI設定指針については、
 - ・ Well-Being指標は必ずしも個別特定の事業とは紐付かず住民の幸福度を測る包括的な指標
 - ・ スマートシティ施策のKPI設定指針はスマートシティ関連施策を評価するための枠組み及び評価指標と位置付けられるのではないか。

【Well-Being指標のイメージ】



【関連する指標の例】スマートシティ施策のKPI設定指針

国によるスマートシティ施策の評価枠組み・評価指標の設定及び地域（自治体・コンソーシアム等）によるスマートシティ施策の評価枠組み・基幹的評価指標についての検討を実施し、EBPMの方法論に基づくスマートシティの施策を評価の枠組みの構築を目指すもの

スマートシティ評価指標検討の対象分野

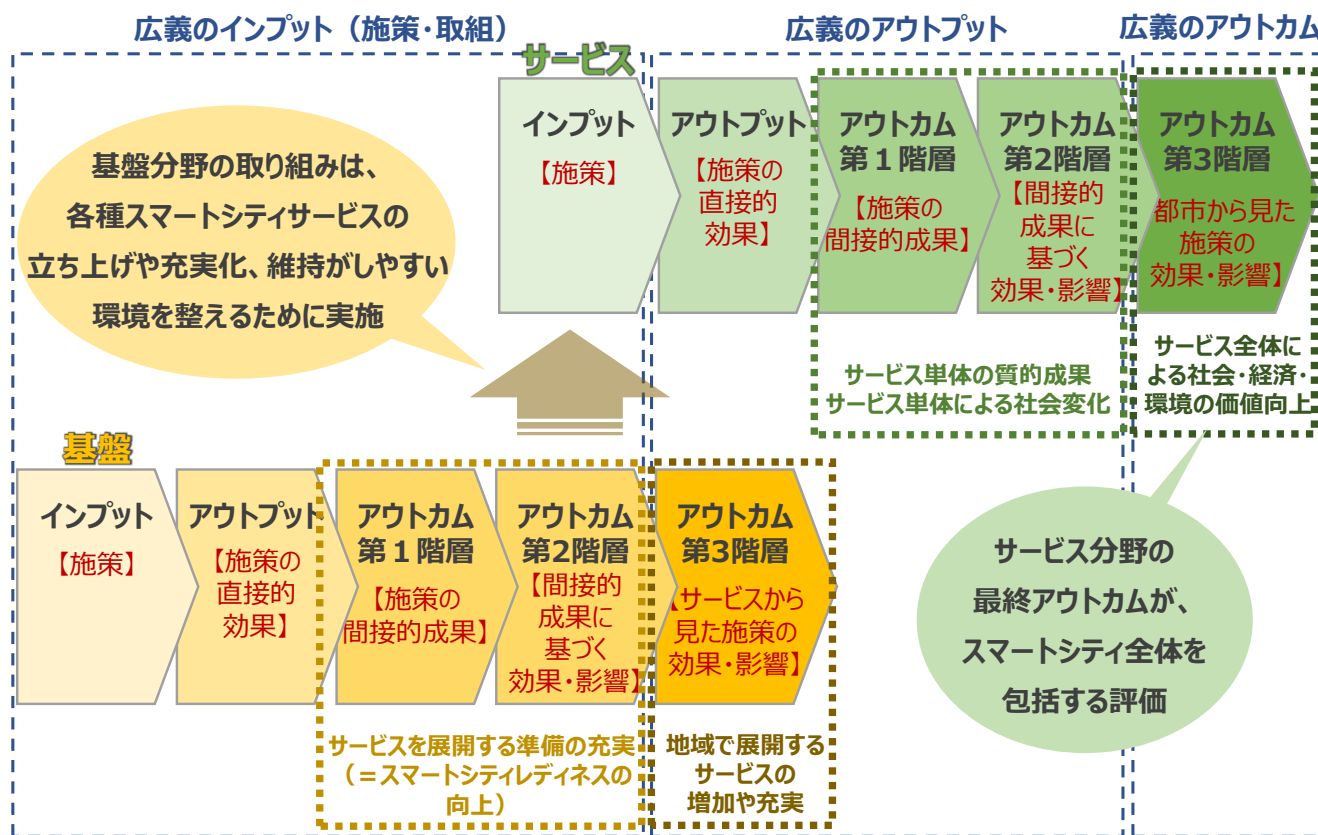
大分類	評価分野	施策テーマ
サービス	モビリティ	交通/モビリティ、物流、交通拠点
	環境/エネルギー	環境、エネルギー、水資源、廃棄物
	防災/防犯	防災、防犯
	インフラ/施設	インフラ維持管理、都市計画・整備、施設マネジメント、住宅、建設、不動産
	健康/医療	健康、医療、介護
	産業/経済	農林水産業、観光、地域経済活性化、産業創出、産学連携、デジタル通貨・決済、働き方
	地域社会	地域コミュニティ形成、地域自治、社会活動
	教育/文化	教育、子育て、文化・アート
	行政	e-サービス、デジタル運営、セキュリティ
	基盤	IT基盤
運営体制		官民連携、住民参画、運営のオープン性・透明性、マネタイズ
人材		スマートシティ人材育成・活用、リテラシー/デジタルバイド対策
その他	分野横断型	上記の評価分野を横断する施策（例：新技術の社会実装支援事業で複数の評価分野に跨る施策など）

(参考) スマートシティ施策のKPI設定指針の概要

スマートシティ施策のKPI設定指針（2022年4月策定）とは

- スマートシティ施策のKPI設定指針は、地域（コンソーシアム等）の進める多様なスマートシティ関連施策に対する適切な評価の枠組み・評価指標を示し、これを通じて、各地で適切な施策評価および評価に基づいた施策改善を促進することを目的に策定されたもの。
- ロジックモデルを用いて論理的に施策の評価を行い、施策の評価にふさわしい評価指標・KPIの設定方法を整理し、また指針に基づいた評価指標・KPIを導入することで、他都市との比較や地域の独自性のバランスを客観的に見る構成となっている。

【ロジックモデルの全体像】※スマートシティレディネス：各種サービスの立ち上げや充実化、維持がしやすい環境の整っている程度を表す指標群



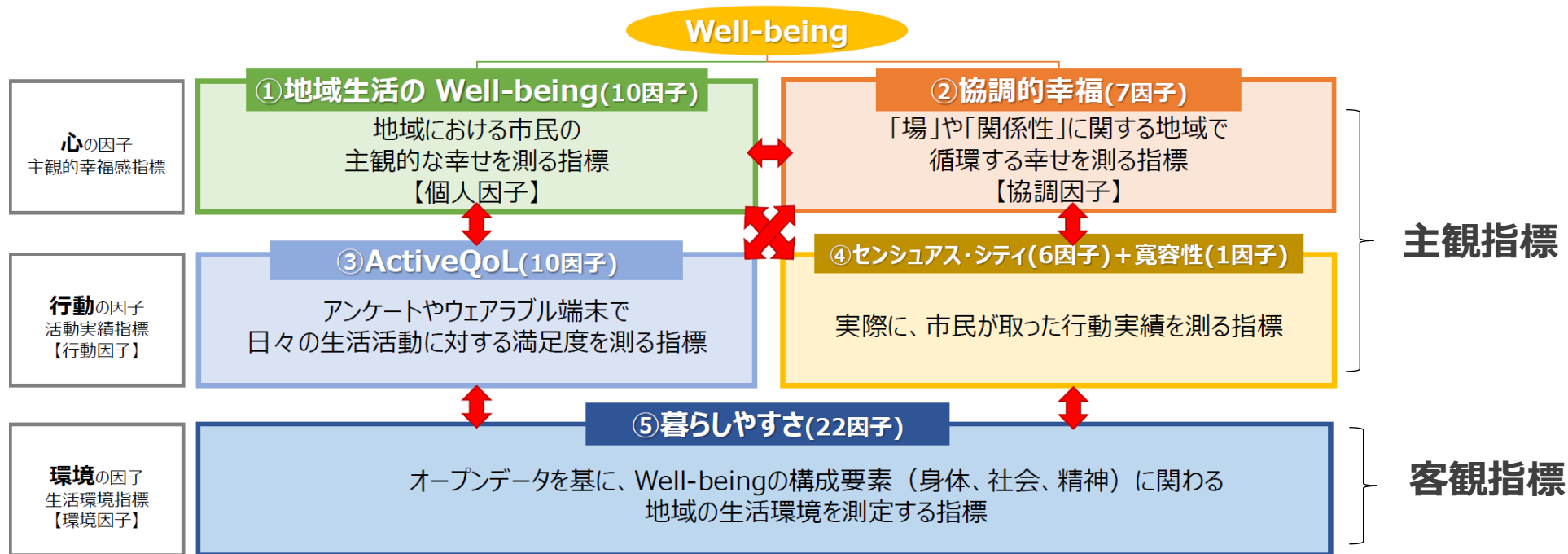
	評価分野	施策のテーマ例
サービス	モビリティ	交通/モビリティ、物流、交通拠点
	環境/エネルギー	環境、エネルギー、水資源、廃棄物
	防災/防犯	防災、防犯
	インフラ/施設	インフラ維持管理、都市計画・整備、施設マネジメント、住宅、建設、不動産
	健康/医療	健康、医療、介護
	産業/経済	農林水産業、観光、産学連携、地域経済活性化、産業創出、デジタル通貨・決済、働き方
	地域社会	地域コミュニティ形成、地域自治、社会活動
	教育/文化	教育、子育て、文化・アート
	行政	e-サービス、デジタル運営、セキュリティ
	基盤	IT基盤
運営体制		官民連携、住民参画、マネタイズ運営のオープン性・透明性
人材		スマートシティ人材育成・活用、リテラシー/デジタルデバインド対策

参考 1 地域幸福度 (Well-Being) 指標に関する補足資料

地域幸福度（Well-Being）指標の構成要素

- デジタルを活用した複数のサービスが、データ連携基盤の上で、ひとつのまちづくりの共通のゴールに向けて積極的に協力し、各地域で産官学市民含め様々な関係者がともに、地域幸福度向上に向けた事業と市民参加の好循環を構築していくことを目指す。
- 各種統計データを指標化し、分野間などの比較に用いる客観指標、市民へのアンケート調査結果を指標化し、時系列での比較に強い主観指標の二つの指標で、まちづくりを支える。

・地域幸福度指標（Well-Being指標）は、主観的幸福感指標である心、活動実績指標である行動、生活環境指標である環境の大きく3つの領域に分類され、さらに全体として5つの指標（計56因子）で構成される。



客観指標の概要

- 客観指標は、身体・社会・精神の健康に関わる、地域の生活環境の測定指数。
- 各KPIはオープンデータを基本とし、都市単位で偏差値化している。

身体（30指標）

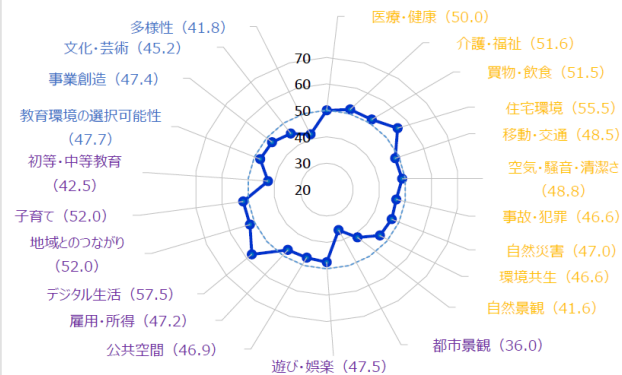
- ①医療・健康（7）
 - 健康寿命、医療費、健康診断受診率
- ②買物・飲食（4）
 - 商業施設数、飲食店数等
- ③移動・交通（5）
 - 駅またはバス停徒歩圏人口カバー率
 - 一人あたり小型車走行キロ等
- ④自然災害（1）
 - 自然災害・防災指数
- ⑤介護・福祉（4）
 - 福祉施設徒歩圏人口カバー率等
- ⑥住宅環境（4）
 - 1住宅あたり延べ面積、持ち家割合
- ⑦空気・騒音・清潔さ（2）
 - Nox平均値、PM2.5年平均値
- ⑧事故・犯罪（3）
 - 交通事故数、空家率、刑法犯認知件数
- ⑨環境共生（4）
 - 非可住地面積、年間CO2排出量、ごみのリサイクル率
- ⑩自然景観（1）
 - 自然景観指数

社会（41指標）

- ①都市景観（1）
 - 都市景観指数
- ②公共空間（4）
 - 公園緑地徒歩圏人口カバー率、公園面積、歩道設置率、公共空間指数
- ③デジタル生活（3）
 - 自治体DX、デジタル政策、デジタル生活指数
- ④子育て（6）
 - 合計特殊出生率、10万人あたり待機児童数等
- ⑤初等・中等教育（6）
 - 可住地面積あたり小・中・高等学校数、1施設あたり学生数
- ⑥遊び・娯楽（1）
 - 娯楽業事業所数
- ⑦雇用・所得（8）
 - 失業率、正規雇用者比率、高齢者有業立率等
- ⑧地域との繋がり（12）
 - 投票率、自殺者数、自治会町内会加入率等等

精神（18指標）

- ①教育環境の選択可能性（3）
 - 大卒、院卒者割合、大学、短大数、中高一貫校数
- ②事業創造（4）
 - 新規設立法人割合
 - コワーキングスペース数等
- ③文化芸術（6）
 - 芸術家・著述者等割合、図書館数、博物館数、劇場等の数等
- ④多様性（5）
 - 地方議会における女性議員割合、外国人人口等



客観指標の分析例 (例：会津若松市)

- 指標の計測結果は、レーダーチャートの形で表示し、それぞれの街の多様な性格を視覚的に表示（エリア間の比較が目的ではないため、ランキング付けなどは行わない）。
- 基本的な計測ツールはデジタル庁が提供。すべての自治体が客観指標を活用し、分析が可能。

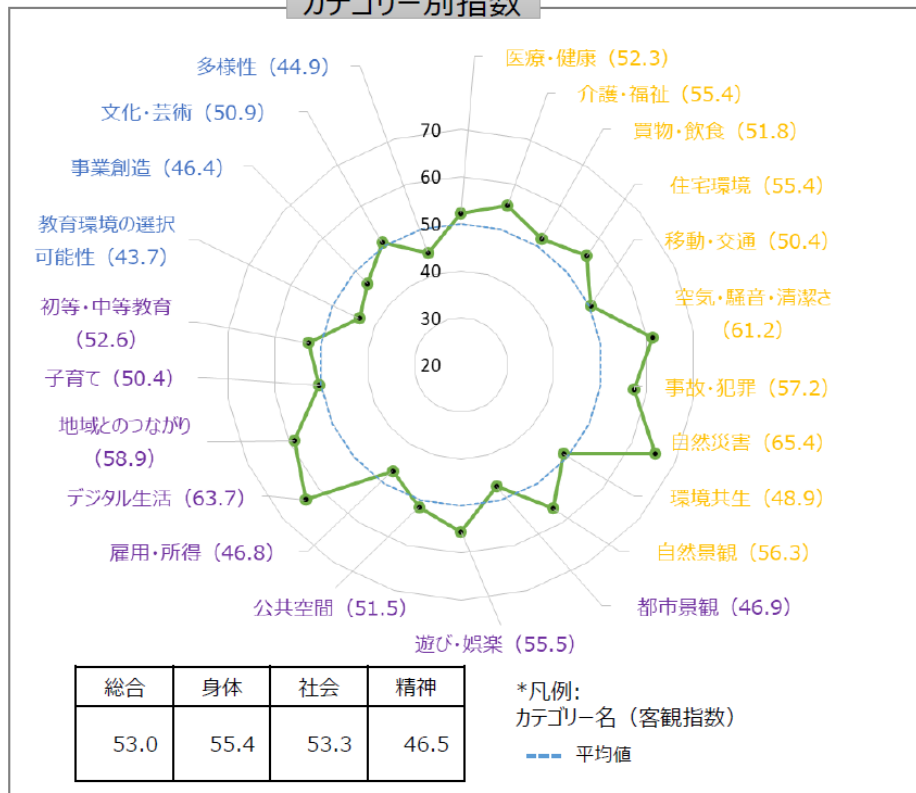
概要

人口	約12万人	高齢化率	約31%
可住地人口密度	671人/km2	昼夜間人口比率	106%
都市の特徴・周辺地域との関わり	福島県西部一帯を占める会津地方の中心都市。北部、西部、中心部周辺は会津盆地の南東部にあたり、市街地、商業地、住宅地などのほか、水田が広がる。会津地方の東西と南北を結ぶ道路は会津若松市で交差し、鉄道でも各線が集まる会津地方の交通の要衝である。		
将来都市像	ともに歩み、ともに創る「温故創しん」会津若松：「誰もがお互いを尊重し合い、自分らしく、幸せな暮らしを営むことができる、強く、やさしいまち」、「個性と魅力をもち、連綿と続く活力あるまち」		

サマリー

- 磐梯山や猪苗代湖等、豊かな自然に恵まれ、鶴ヶ城や飯盛山をはじめとした歴史と文化の名所が揃った都市。一方、近年では、人口減少や少子高齢化による人口構造の変化や人材の流出等の課題に直面している。
- このような背景のもと、会津若松市は2013年から「スマートシティ会津若松」を掲げ、様々な分野でICTの活用を推進。地域経済の活性化や市民生活の利便性向上を目指し、デジタル情報プラットフォーム（会津若松+）の整備やICTオフィス「スマートシティ AiCT」の開所等を実施。
- 会津若松市の長は、自然災害リスクが低く、自然が豊かで空気がきれいであること。また、健康に対する意識が高い。地域とのつながりが強く、特に投票率が高い。そして、文化・芸術に関連するKPIが比較的高い。
- また、雇用の機会や事業創造が、他市と比較し低めであることから、上記スマートシティの取組みによりICT関連産業の集積や新規雇用の創出が実現されることが期待される。

カテゴリー別指数



(例) 会津若松市において、客観指標を活用すると、自然災害に関するリスクの低いことや、自然の豊かさ、デジタル環境の整備が進んでいること等が確認できる。

主観指標の概要

- 主観指標は、住民の主観的幸福感を表す指標。
- 令和4年6月に全国34,000人に対しパネル調査を行った結果を公開。
- 各地域はこの指標を活用し、デジタル田園都市国家構想が住民の幸福度にどのような影響を与えたかを確認でき、地域のEBPMに活かすことができる。

Well-beingアンケート設問

地域生活のWell-being〔個人因子〕の設問一覧

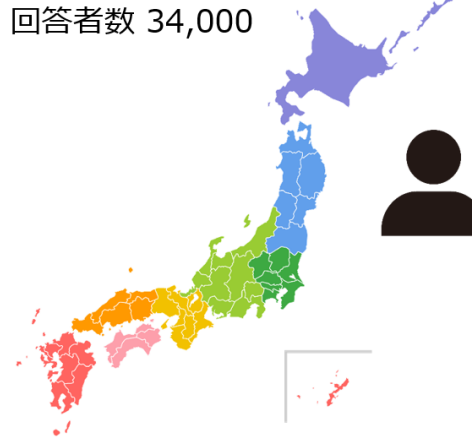
■ 各設問の回答形式は、「非常にあてはまる」、「ある程度あてはまる」、「どちらとも言いえない」、「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」の5件法です。

■ 回答する地域（範囲）を定めるため、「あなたが暮らしている地域（〇〇）についてお答えください」と敬示します。

<p>デジタル生活と関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 暮らしている地域では、文化・芸術・芸術が盛んである 暮らしている地域では、新しい発見や体験ができる 暮らしている地域では、自然の恵み/物産が豊富にある 暮らしている地域では、自然環境が美しい 	<p>健康と生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、精神的に健康である 私は、身体的に健康である 私は、日々の生活において、笑っている 最近この地域は、私の好きな場所である 暮らしている地域は、暮らすに楽しい
<p>生活の利便性</p> <ul style="list-style-type: none"> 暮らしている地域は、交通利便性が良い 暮らしている地域は、買い物やサービスが受けやすい 暮らしている地域は、自然環境が美しい 	<p>地域への関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 暮らしている地域は、地域に誇りを持っている 暮らしている地域は、地域に愛着を持っている 暮らしている地域は、地域に誇りを持っている 暮らしている地域は、地域に愛着を持っている
<p>自然環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 暮らしている地域は、自然環境が美しい 暮らしている地域は、自然環境が美しい 暮らしている地域は、自然環境が美しい 暮らしている地域は、自然環境が美しい 	<p>生活への関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 暮らしている地域は、地域に誇りを持っている 暮らしている地域は、地域に愛着を持っている 暮らしている地域は、地域に誇りを持っている 暮らしている地域は、地域に愛着を持っている
<p>居住環境の快適性</p> <ul style="list-style-type: none"> 自宅は、心地よい環境である 暮らしている地域は、自然環境が美しい 暮らしている地域は、自然環境が美しい 暮らしている地域は、自然環境が美しい 	<p>生活への関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 暮らしている地域は、地域に誇りを持っている 暮らしている地域は、地域に愛着を持っている 暮らしている地域は、地域に誇りを持っている 暮らしている地域は、地域に愛着を持っている
<p>生活の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、生活の満足度が高い 暮らしている地域は、自然環境が美しい 暮らしている地域は、自然環境が美しい 暮らしている地域は、自然環境が美しい 	<p>生活への関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 暮らしている地域は、地域に誇りを持っている 暮らしている地域は、地域に愛着を持っている 暮らしている地域は、地域に誇りを持っている 暮らしている地域は、地域に愛着を持っている

・20～89歳の男女インターネット利用者を対象に全国一斉Web調査を実施（令和4年6月実施）

全国調査
回答者数 34,000



20～89歳の
男女

「(株)三菱総合研究所・生活者市場予測システム (mif)」のパネルが2022年6月に回答

設問はスマートシティ・インスティテュートウェブサイト
LWC指標活用ガイドブック参照
<https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>

主観指標の質問項目

- 主観指標は以下の様な項目から構成

地域における幸福の因子

- ① **ダイナミズムと誇り** (3)
 - 刺激・躍動感・機会の有無
- ② **生活の利便性** (3)
 - 買物・医療・公共施設の利便性
- ③ **自然の体感** (3)
 - 喜びを感じる自然環境の有無
- ④ **居住空間の快適さ** (3)
 - 快適な生活ができる自宅の有無
- ⑤ **つながりと感謝** (3)
 - 地域に暮らす身近な人の有無
- ⑥ **健康状態** (3)
 - 身体的・精神的健康への満足度
- ⑦ **地域との相性** (3)
 - 心地よい街並み・雰囲気の有無
- ⑧ **地域行政への信頼** (3)
 - 地域行政への信頼・共感の有無
- ⑨ **生活ルールの秩序** (3)
 - 社会ルール、マナーの有無
- ⑩ **過干渉と不寛容** (3)
 - 近隣住民の干渉やトラブルの有無

協調的因子

- ① **地域内の社会関係資本** (9)
 - 地域内の信頼・規範の有無
- ② **地域の幸福** (12)
 - 個人・隣人の主観的幸福感の有無
- ③ **地域の一体感** (10)
 - 地域の一体感・協調性の有無
- ④ **異質性・多様性への寛容さ** (6)
 - 地域への信頼・地域への寛容性有無
- ⑤ **向社会的行動** (8)
 - 地域への貢献・サポートの有無
- ⑥ **多世代共創** (5)
 - 世代間での価値観共有・継承有無
- ⑦ **モチベーション** (2)
 - 楽観・悲観主義の有無

ActiveQoL

- ① **直近1ヶ月の間に行った活動に対する平均の満足度**
 - 10の活動に対する直近1ヶ月の満足度
 - 〈10の活動〉
1.仕事、2.学業・学習・習い事、3.病院への受診・療養、家族の介護・看護、4.子育て（義務教育まで）、5.自宅外での食事、6.買い物、7.運動・スポーツ、8.遊び・娯楽、9.地域との繋がりがあある活動、10.文化芸術にふれる活動
- ② **直近1ヶ月の間に行った活動の状況**
 - ①で行っていないと答えた活動以外の活動の活動状況
- ③ **活動の嗜好**
 - ③は現在行っていない活動も含めて別途嗜好を確認。

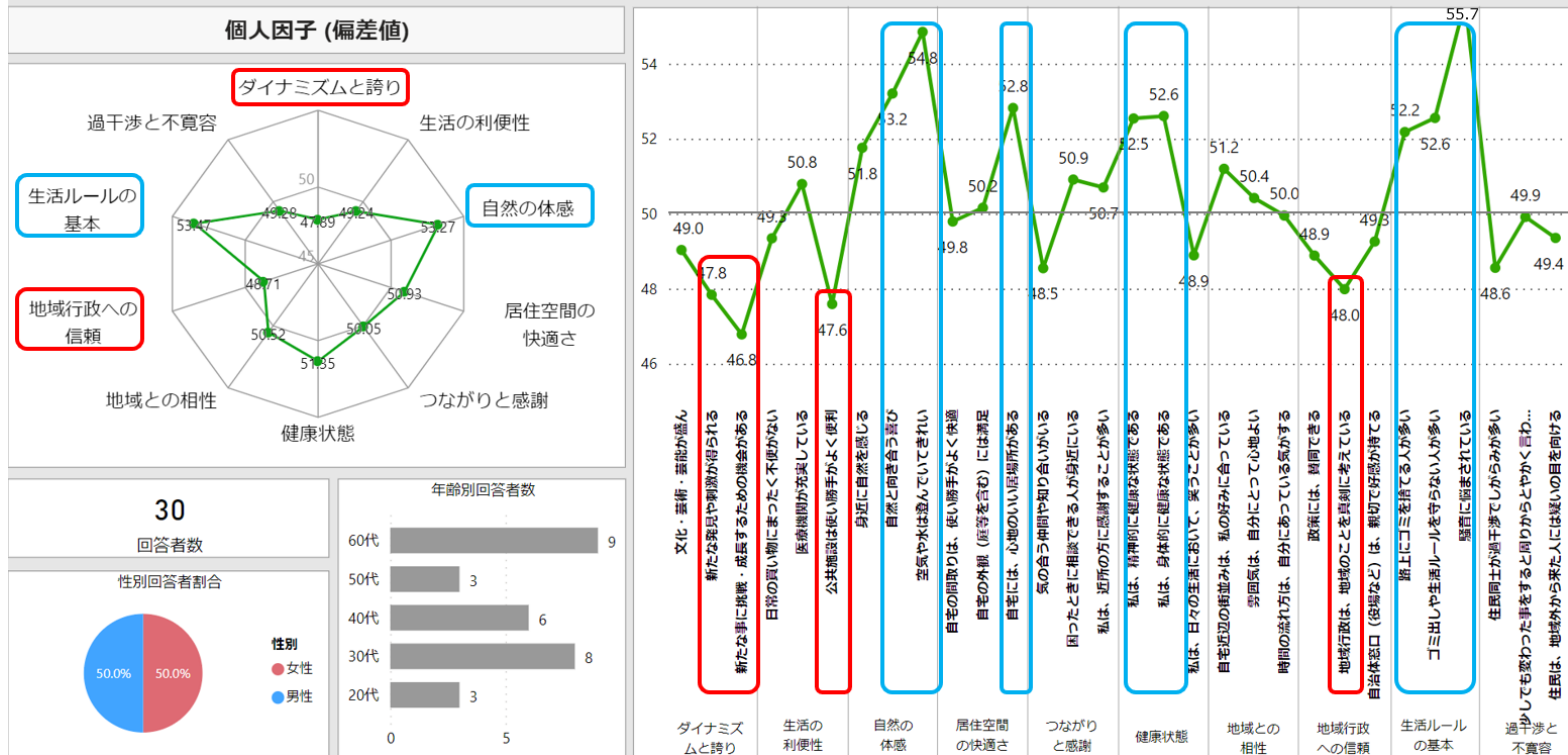
センシユアシティ

- ① **共同体に属している** (4)
 - このまちの一員であるという実感の有無
- ② **機会がある** (4)
 - 刺激、文化的充足、経済的機会の有無
- ③ **食文化が豊か** (4)
 - 地産地消、魅力的な食文化の有無
- ④ **街を感じる** (4)
 - 活気あふれる空間、人の営みの有無
- ⑤ **自然を感じる** (4)
 - 心地よさを体感できる自然環境の有無
- ⑥ **歩ける** (4)
 - 歩くことを楽しめる街並み、環境の有無
- ⑦ **寛容性がある** (6)
 - 多様性を受容する雰囲気の有無

主観指標の可視化のイメージ（例：会津若松市）

- 主観指標データはエリアなどで可視化され、比較することができる。
- デジ田交付金Type2/3採択自治体を中心に活用を開始。活用地域を徐々に拡大。
- 主観指標は住民や関係団体を巻き込みで、ロジックモデルとして組み立て、今後のまちづくりに活用。

【会津若松市】 自然豊かでマナーが良く守られていると回答する人が多い、清潔で気持ちよく過ごせるまち。精神的にも身体的にも健康という人が多い。一方、刺激や挑戦が少なく、地域行政への信頼が低いと回答する人がやや多い



参考 2 客観指標の分析手順

【参考】概要表作成手順書

令和4年11月 デジタル庁デジタル田園都市国家構想チーム作成

地域幸福度 (Well-Being) 指標の公開資料として作成いただく概要表の作成手順書です。

【完成イメージ】

概要			
人口	約80万人	高齢化率	約26%
可住地人口密度	1,640人/km ²	昼夜間人口比率	99%
都市の特徴・ 周辺地域との関わり	浜名湖を有する自然豊かな政令市。中部地方では名古屋市に次ぎ、静岡県および三遠南信最大の人口。市内に大手自動車メーカーの本社が所在し、周辺に自動車部品工場も多い工業都市。高速道路や新幹線駅もある周辺地域のリーダー。		
将来都市像	「市民協働で築く未来へかがやく創造都市・浜松」		

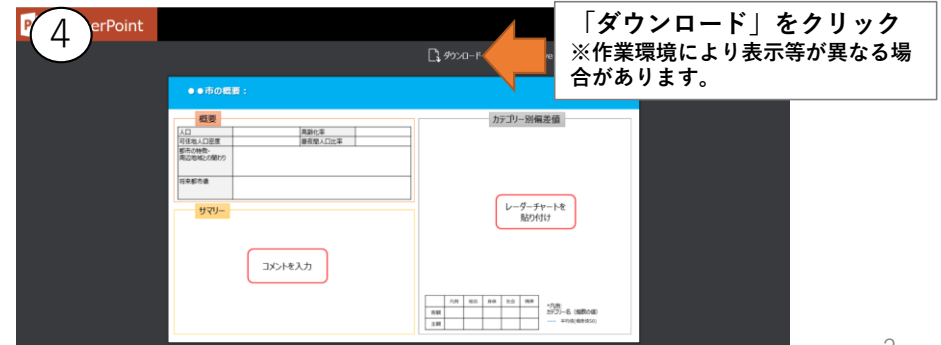
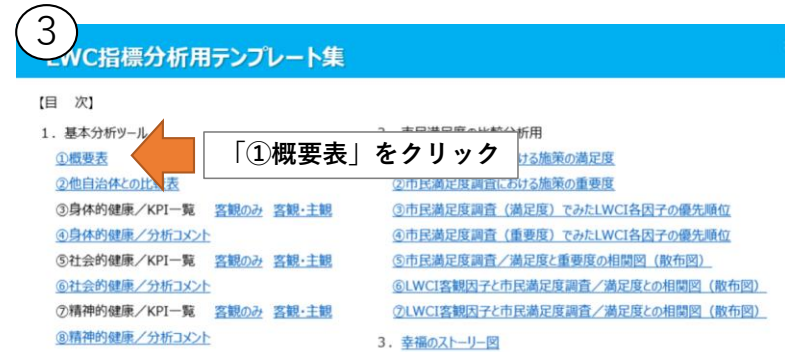
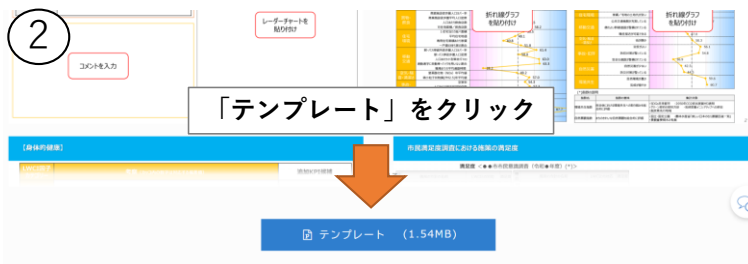
サマリー	
■	「自治会・町内会加盟率」、「選挙投票率」、「拡大家族世帯割合」等で示される地域とのつながりは、日本トップクラス。分厚い社会関係資本が、浜松市の顕著な強み。
■	自然環境が豊かで、空気・騒音・清潔さの値も高水準。環境共生に関する活動も活発と、自然環境との共存意識も高い。
■	健康寿命は、男女ともに極めて高水準であることも大きな特徴。
■	「歳出総額における教育費の構成比」や、「合計特殊出生率」も高い。
■	雇用も若年層から高齢者まで高い水準となっており、地域で仕事が見つけやすく、雇用が安定している。
■	全般的に高水準のオールラウンドプレイヤー的なパフォーマンスではあるが、交通事故件数の多さや、国土縮図型都市で様々な自然災害に備える必要があるなど課題もある。



様式等出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュートHP
(<https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>)

手順1 標準テンプレートのダウンロード

一般社団法人スマートシティ・インスティテュートのホームページ (URL: <https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>) から、「①概要表」の標準テンプレートをダウンロードする。

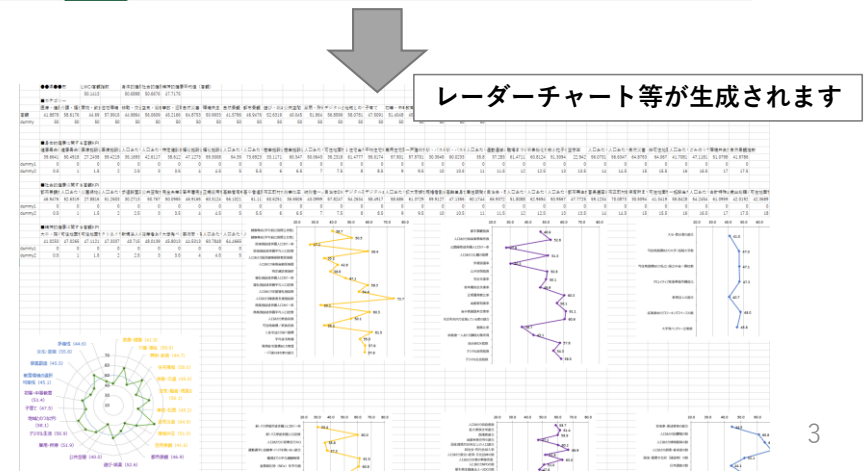
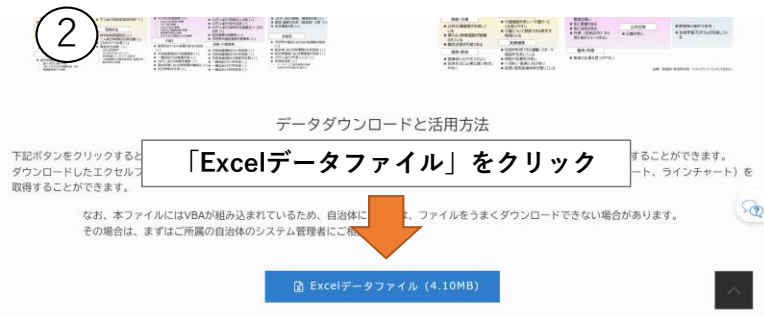
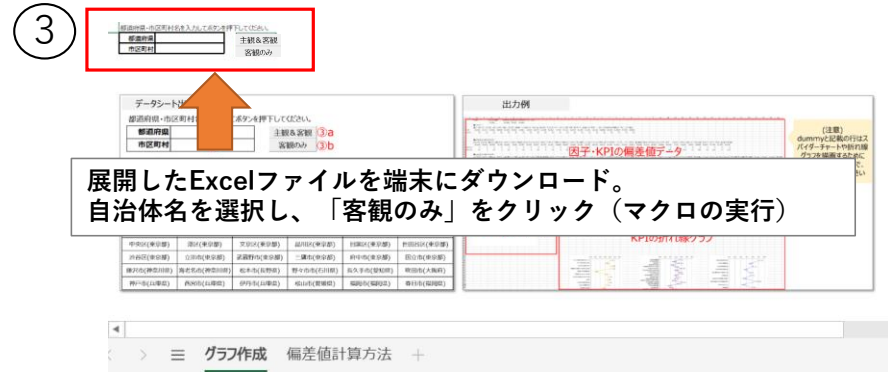


様式等出所：スマートシティ・インスティテュートHP

概要表作成手順書 3 / 5 (手順②レーダーチャートの生成)

手順2 レーダーチャートの生成

「暮らしやすさの客観・主観データ (Excelデータファイル)」をダウンロードし、データファイルからレーダーチャートを生成する。



様式等出所：スマートシティ・インスティテュートHP

概要表作成手順書 4 / 5 (手順③レーダーチャートの貼付)

手順3 概要欄を記載し、レーダーチャートを貼付

貴自治体の統計書等の資料を元に、手順1でダウンロードした「概要表」の概要欄を記載し、手順2で生成されたレーダーチャートをカテゴリー別偏差値欄に貼り付ける。

市の統計書等の資料から記載

1 概要 :

2

概要

人口	高齢化率
可住地人口密度	昼夜間人口比率
都市の特徴・ 周辺地域との関わり	
将来都市像	

サマリー

コメントを入力

カテゴリー別偏差値

レーダーチャートを
貼り付け

2 コピーして貼付

	凡例	総合	身体	社会	精神
客観					
主観					

凡例:
カテゴリー名 (指数の値)
平均値(標準値50)

様式等出所：スマートシティ・インスティテュートHP

手順4 サマリー欄を記載

- ・手順3で貼付けたグラフを見て、高い、低いなど特徴的な指標を中心に気付いた点を記載する。
- ・これまでに実施した施策等に紐付けられるものを中心に記載。
- ・今後の施策立案の参考となる新たな気付きがあれば、その点も記載する。

●●市の概要 :

概要		高齢化率	
人口			
可住地人口			
都市の特性 周辺地域との関係	サマリー欄に記載		
将来都市像			

サマリー

コメントを入力

カテゴリ別偏差値

レーダーチャートを貼り付け

	凡例	総合	身体	社会	精神
客観					
主観					

*凡例:
カテゴリ名 (指数の値)
--- 平均値(偏差値50)

出来上がった資料は令和5年3月末までに自治体ホームページに掲載してください。

— 参考 3 その他の参考情報

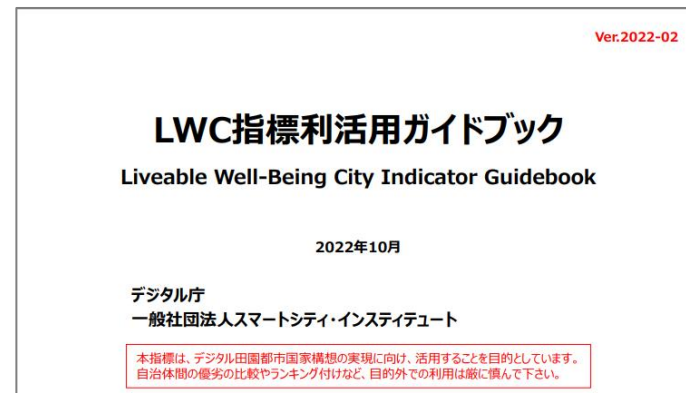
地域幸福度（Well-Being）指標関係の参考情報

■ 指標利活用ガイドブック

<https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>



ダウンロード
することで入手可能



■ 動画

https://www.digital.go.jp/policies/digital_garden_city_nation/



前編 デジタル田園都市におけるWell-Being指標の活用について
(デジタル庁 国民向けサービスグループ統括官 村上敬亮氏)



後編 市民の幸福感を高めるまちづくりの指標
(一般社団法人スマートシティ・インスティテュート専務理事 南雲岳彦)



2022年7月15日 デジタル田園都市国家構想におけるWell-Being指標活用に係るオンライン説明会